

の健康食品があり、健康補助食品とその他の健康食品は健康機能を表示できない。また、保健機能食品にも表示可能となる情報は制限がある。

特定保健用食品については、臨床試験によって効果が立証された事項について、検査値などの指標(例えば中性脂肪やコレステロール)や生理機能・組織機能(例えば便通)の維持・改善、一時的であって継続的・慢性的でない体調の変化(例えば肉体疲労)の改善などを表示することができるが、傷病そのものの改善(例えば、「高脂

血症を改善する)を表示することは認められない。

栄養機能食品については、臨床試験は不要であるが、12種類のビタミンと5種類のミネラルに限定されており、例えば、ビタミンAを所定量含有していれば、「ビタミンAは、皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です」と表示できる。特別用途食品は、一般の健康人を対象とした食品ではなく、「特別用途食品」マークの表示ができることになっている。

薬事法及び食品衛生法における医薬品ならびに食品の規制

	広義の医薬品		食品		
	医薬品	医薬部外品	保健機能食品		一般食品 (健康食品含む)
			特定保健用食品	栄養機能食品	
定義している法律	薬事法		健康増進法・食品衛生法		
効果効能の表示	国の認可により表示可能			定められた栄養機能のみ可能	できない
販売の規制	薬局・薬店のみ ^注		一般小売店でも販売可能		

注:OTCの販売については、平成21年6月より安全性の区分により販売規制が変更される。

B. 研究方法

平成7, 10, 13, 16年の各年度の国民生活基礎調査個票データを用いた。データセットは、各年度の世帯票、健康票、所得・貯蓄票を県・地区・単位区・世帯番号、生年月日、性によって突合したデータであり、平成7年度103,049件、平成10年度90,059件、平成13年度89,325件、平成16年度72,487件である。本データをSPSS Statistics 17.0に変換したものを解析に供した。

解析は、平成16年度調査を基本として、健康票の自覚症状の「主症状の治療状況」から「病

院・診療所に通っている(往診・訪問治療を含む)」および「売薬をのんだり、つけたりしている」の組み合わせで、以下の4群に分類し、各自覚症状別の保健医療サービスの利用状況の違い、経済状況別の保健医療サービスの利用状況の違いを検討した。また、対象年齢は、20歳以上とした。

- ① 医療機関も売薬も使用せず
- ② 医療機関受診なし・売薬あり
- ③ 医療機関受診あり・売薬なし
- ④ 医療機関も売薬も使用

なお、以下に示すように、医療機関(病院・診療所)の受診については、各年度に以下のように分類の違いがある。平成7年度については、老人保健施設を除き、病院と診療所のどちらかあるいは両方に通っているものを医療機関受診とした。平成10年は、老人保健施設が含まれ、平成16

年については、往診も含まれるなど、年度間比較は参考にとどまることを留意する必要がある。

また、本研究は、匿名化された個票データの使用のために、事前に目的外使用の審査を受けている。

平成7年度	平成10年度	平成13年度	平成16年度
病院に通っている		病院・診療所に通っている	病院・診療所に通っている(往診・訪問治療を含む)
診療所に通っている	病院・診療所・老人保健施設に通っている		
老人保健施設に通っている			
あんま・はり・きゅう・柔道整復師に通っている	あんま・はり・きゅう・柔道整復師に通っている	あんま・はり・きゅう・柔道整復師に通っている	あんま・はり・きゅう・柔道整復師(施術所)にかかっている
売薬をのんだり、つけてりしている	売薬をのんだり、つけてりしている	売薬をのんだり、つけてりしている	売薬をのんだり、つけてりしている
それ以外の治療をしている	それ以外の治療をしている	それ以外の治療をしている	それ以外の治療をしている
治療をしていない	治療をしていない	治療をしていない	治療をしていない
不詳	不詳	不詳	治療状況不詳

(倫理面への配慮)

本研究は平成18～20年度の3カ年の研究計画における平成20年度の実担研究であり、本3カ年の研究計画で行われる何れのアンケート調査の実施に際しては、個別の回答から個人が特定されることがないようにするなど、個人情報保護等に十分配慮した。また、収集したデータの管理においても、データの漏洩がないよう十分に配慮した。国民生活基礎調査のような二次的データについても同様に十分に配慮し、疫学研究に関する倫理指針に基づき、これを遵守し、匿名化された個票データの使用のために、事前に目的外使用の審査を厚生労働省及び総務省より受け

ている。他は文献調査を基本としており、倫理面への配慮は必要ない。

C. 研究結果

(1) 国民生活基礎調査個票による保健医療サービスの利用状況

平成7年度から平成16年度の医療機関受診と売薬の利用状況をそれぞれ図表1～4に示した。平成16年度については「医療機関も売薬も使用せず」が男の全年齢階層で34.7%、「医療機関受診なし・売薬あり」が13.2%、「医療機関受診あり・売薬なし」が46.4%、「医療機関も売薬も使用」が5.7%であり、男女間に大きな違いはなかった。す

なわち、「売薬」を使用している割合は、全体の約2割と考えられる。

医療機関を受診せずに売薬の身を使用している割合は、壮年層(20~69歳)で多く、仕事との

関係が推察された。なお、表には示していないが、20歳未満では医療機関を受診している割合が多く、医療機関受診ニーズが20歳以上とは異なると推察され、本研究では解析から叙階している。

年齢区分と@3売薬をのんだり、つけてりしているとの関係

年齢区分			@3売薬をのんだり、つけてりしている		合計
	度数	年齢区分の%	つかっていない	つかっている	
0^9	1339	83.9%	256	16.1%	1595
10^19	1131	77.4%	330	22.6%	1461
20^29	1211	77.2%	358	22.8%	1569
30^39	1700	74.5%	582	25.5%	2282
40^49	1898	74.8%	641	25.2%	2539
50^59	2982	79.1%	788	20.9%	3770
60^69	3494	80.5%	848	19.5%	4342
70^79	3708	84.0%	706	16.0%	4414
80以上	1755	83.8%	339	16.2%	2094
合計	19218	79.9%	4848	20.1%	24066

(2) 自覚症状と保健医療サービスの利用

自覚症状と保健医療サービスの利用との関係図表4~14に示した。各症状を有するもののうちそれぞれの保健医療サービスの利用割合として示している。先に述べたように年度間比較はあくまでも参考にとどまるため、平成16年度についてみる。

症状により売薬を使用するかどうかにかかなりの違いがみられる。中枢神経系では、ものわすれ、体のだるさ、頭痛が売薬の使用が多く、特にヅツ

うでは、医療機関を受診せず売薬のみで治療している者の割合が20.7%と多かった。また、物忘れでは医療機関の受診とあわせ売薬を利用している者の割合が多く、医療機関での治療だけでは不十分と認識されているものが多い可能性が示唆される。同様の傾向は眼科系の目のかすみやものをみづらいとの症状でも見られた。

心臓系の動悸、前胸部痛、息切れでは、医療機関を受診せず売薬のみで治療している者の割合は少なく、西洋医療へのニーズが高い症状で

あると考えられた。呼吸器でも、せき・たん、鼻づまり・鼻汁では、売薬を使用している割合は高いが、せいでいすとの症状ではその割合は低くなり、症状の重症度に対する利用者の認識の差が見られた。

消化器では、比較的、保健医療サービスの利用割合は高くなかったが、便秘での売薬の利用割合が高かった。

売薬の利用が最も多かったのが、筋骨格系であり、肩こりでは 40.8%、腰痛では 36.4%が売薬のみで治療されていた。またこれらの症状では、医療機関を受診しながら売薬も利用している割合も多かった。

(3) 経済状況と売薬利用

平成 16 年度における保険の加入状況、仕事、所得と売薬の利用状況の関係を図表 15～20 に示した。なお、この分析では、自覚症状を有しており施設に入所していないものを対象に解析を行っている。

医療保険の加入状況との関係でみると、本人、家族において売薬のみを使用している割合がやや高く、本人において売薬を使用せずに医療機関のみを利用している割合がやや低く、市町村国保の加入者では売薬を使用せずに医療機関のみを利用している割合が高い傾向であった。また、仕事をもっているものは売薬のみの使用割合が高く、医療機関の利用割合が低かった。

所得との関係については、国民生活基礎調査の世帯所得、個人所得のそれぞれと保健医療サ

ービスの利用との関係についてみたが、所得階級が高い方が売薬のみを使用している割合がやや高く、医療機関を利用している割合もやや低い傾向であった。そこで、個人所得と健康意識との関係を見たところ、図表 21 に示すように、所得が 400 万円未満においては健康意識が「よい」、あるいは「まあよい」とする割合が比較的 low、「あまりよくない」、「よくない」の割合が高かった。

D. 結語

本解析により、売薬の利用状況と自覚症状、経済状況との関係について情報を得ることができた。すなわち、20 歳以上の国民のほぼ 2 割が売薬を利用しており、特に 20 歳から 50 歳未満での使用割合が相対的に多かった。さらに、年齢階層が上がるに従い売薬のみで治療を行っている割合が少なくなり、年齢階層があがると医療機関受診に加えて売薬を使う割合が増えることから、年齢により、売薬が医療機関の受診の代替関係と相補関係とに違いがあることが推察された。

また、初年度に実施したインターネット調査により、1 人当たりの売薬への支出額が年間 10 万円程度であることが推計されている(参考表)。これらの結果をもとに、今後売薬利用に関してより詳細な解析を行うことが求められる。

E. 謝辞

本研究に当たり、国民生活基礎調査調査票取り寄せにご協力頂きました、厚生労働省大臣官

房統計情報部企画課審査解析室統計審査第一
係の佐志原玲香さん, 神棒一貴さん, 及び元厚
生労働省大臣官房統計情報部企画課審査解析
室統計審査第一係の森住珠代さんには大変お
世話になりました. 謹んで感謝いたします. ありが
とうございました.

F. 文献

なし

G. 健康危険情報

なし

H. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

I. 知的所有権の取得状況の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

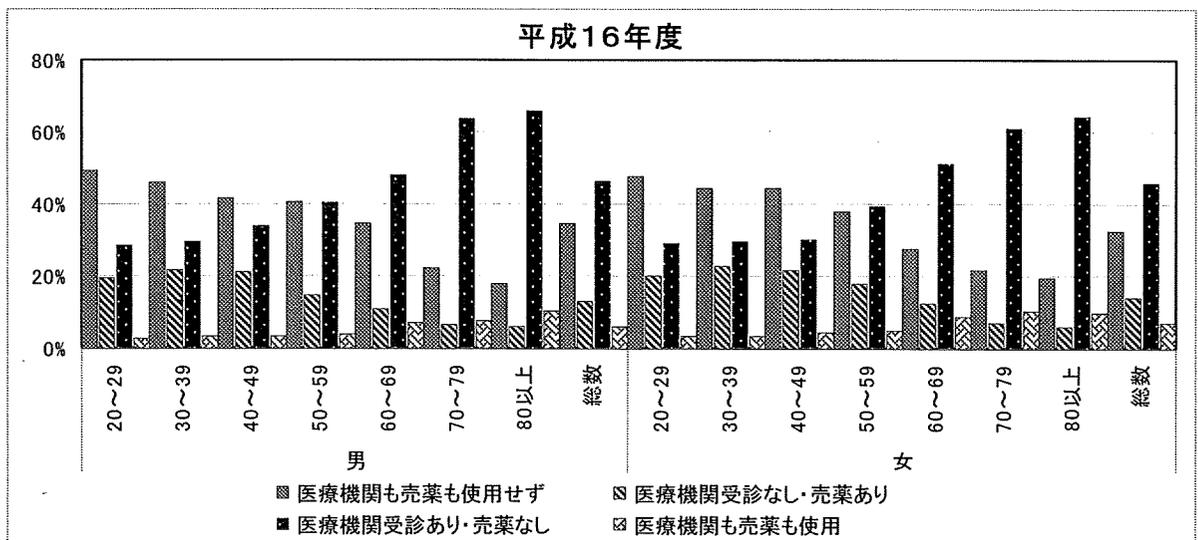
なし

3. その他

なし

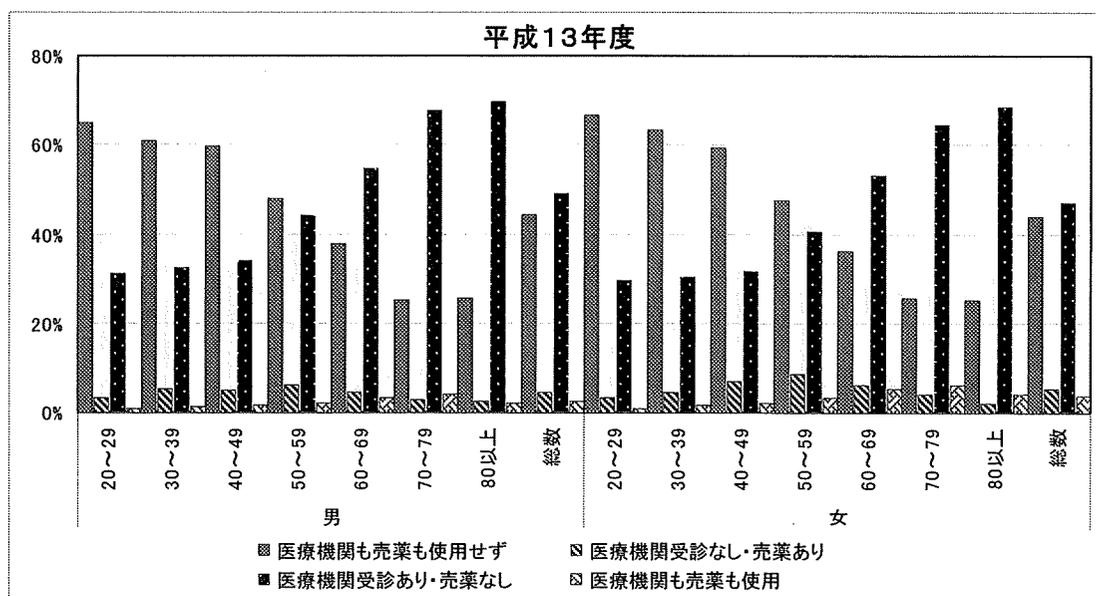
図表1 性・年齢区分別医療の利用状況(平成16年度)

性別	年齢階層	医療機関も売薬も使用せず	医療機関受診なし・売薬あり	医療機関受診あり・売薬なし	医療機関も売薬も使用	総数
男	20～29	306 49.4%	121 19.5%	177 28.5%	16 2.6%	620 100.0%
	30～39	416 45.9%	195 21.5%	268 29.5%	28 3.1%	907 100.0%
	40～49	458 41.7%	232 21.1%	372 33.8%	37 3.4%	1099 100.0%
	50～59	670 40.7%	238 14.5%	671 40.8%	66 4.0%	1645 100.0%
	60～69	660 34.4%	207 10.8%	921 48.0%	132 6.9%	1920 100.0%
	70～79	401 21.9%	120 6.6%	1169 63.8%	142 7.8%	1832 100.0%
	80以上	129 17.7%	42 5.8%	482 66.0%	77 10.5%	730 100.0%
		3040 34.7%	1155 13.2%	4060 46.4%	498 5.7%	8753 100.0%
女	20～29	449 47.3%	192 20.2%	279 29.4%	29 3.1%	949 100.0%
	30～39	610 44.4%	315 22.9%	406 29.5%	44 3.2%	1375 100.0%
	40～49	635 44.1%	310 21.5%	433 30.1%	62 4.3%	1440 100.0%
	50～59	806 37.9%	380 17.9%	835 39.3%	104 4.9%	2125 100.0%
	60～69	673 27.8%	296 12.2%	1240 51.2%	213 8.8%	2422 100.0%
	70～79	562 21.8%	179 6.9%	1576 61.0%	265 10.3%	2582 100.0%
	80以上	265 19.4%	83 6.1%	879 64.4%	137 10.0%	1364 100.0%
		4000 32.6%	1755 14.3%	5648 46.1%	854 7.0%	12257 100.0%



図表2 性・年齢区分別医療の利用状況(平成13年度)

性別	年齢階層	医療機関も売薬も使用せず	医療機関受診なし・売薬あり	医療機関受診あり・売薬なし	医療機関も売薬も使用	総数
男	20～29	574 64.9%	27 3.1%	277 31.3%	7 0.8%	885 100.0%
	30～39	730 61.0%	62 5.2%	388 32.4%	17 1.4%	1197 100.0%
	40～49	854 59.5%	71 4.9%	489 34.1%	22 1.5%	1436 100.0%
	50～59	929 47.8%	117 6.0%	862 44.3%	37 1.9%	1945 100.0%
	60～69	860 37.7%	99 4.3%	1252 54.9%	71 3.1%	2282 100.0%
	70～79	499 25.3%	53 2.7%	1336 67.8%	82 4.2%	1970 100.0%
	80以上	183 25.4%	18 2.5%	505 70.0%	15 2.1%	721 100.0%
	総数	4629 44.4%	447 4.3%	5109 49.0%	251 2.4%	10436 100.0%
	女	20～29	887 66.5%	41 3.1%	397 29.8%	9 0.7%
30～39		1101 63.3%	78 4.5%	530 30.5%	31 1.8%	1740 100.0%
40～49		1185 59.4%	142 7.1%	631 31.6%	38 1.9%	1996 100.0%
50～59		1330 47.5%	237 8.5%	1141 40.7%	93 3.3%	2801 100.0%
60～69		1094 36.0%	181 5.9%	1613 53.0%	155 5.1%	3043 100.0%
70～79		738 25.5%	112 3.9%	1872 64.6%	174 6.0%	2896 100.0%
80以上		375 25.1%	31 2.1%	1023 68.6%	63 4.2%	1492 100.0%
総数		6710 43.9%	822 5.4%	7207 47.1%	563 3.7%	15302 100.0%



図表4 自覚症状と保健医療サービス利用状況(中枢神経系)

熱がある	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	1.4%	2.3%	2.5%	1.7%
医療機関受診なし・売薬あり	3.4%	1.4%	1.0%	1.9%
医療機関受診あり・売薬なし	2.5%	2.8%	2.8%	2.0%
医療機関も売薬も使用	3.1%	1.9%	1.8%	3.3%
総数	2.3%	2.5%	2.5%	2.0%
眠れない	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	4.9%	6.6%	7.7%	8.3%
医療機関受診なし・売薬あり	4.9%	6.9%	6.5%	6.9%
医療機関受診あり・売薬なし	7.6%	11.2%	11.7%	11.0%
医療機関も売薬も使用	17.0%	15.8%	17.3%	17.4%
総数	6.4%	9.1%	9.8%	10.0%
もの忘れする	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず		10.8%	12.8%	13.6%
医療機関受診なし・売薬あり		9.0%	11.5%	11.0%
医療機関受診あり・売薬なし		14.3%	16.2%	15.9%
医療機関も売薬も使用		22.1%	23.1%	24.3%
総数		12.8%	14.7%	15.0%
めまい	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	4.1%	5.5%	5.8%	5.9%
医療機関受診なし・売薬あり	4.5%	4.0%	4.9%	6.3%
医療機関受診あり・売薬なし	7.0%	8.0%	7.9%	8.2%
医療機関も売薬も使用	11.6%	11.4%	12.3%	11.1%
総数	5.7%	6.8%	7.0%	7.3%
体がだるい	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	12.5%	18.4%	18.6%	17.6%
医療機関受診なし・売薬あり	16.1%	13.1%	11.9%	17.9%
医療機関受診あり・売薬なし	12.1%	15.2%	15.3%	13.8%
医療機関も売薬も使用	20.6%	16.8%	18.2%	18.3%
総数	13.0%	16.5%	16.6%	15.9%
いらいらしやすい	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず		10.3%	11.0%	11.3%
医療機関受診なし・売薬あり		7.3%	6.4%	10.1%
医療機関受診あり・売薬なし		8.4%	8.4%	7.9%
医療機関も売薬も使用		11.8%	12.7%	11.9%
総数		9.2%	9.6%	9.6%
頭痛	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	9.8%	13.1%	15.0%	11.5%
医療機関受診なし・売薬あり	18.1%	10.2%	13.1%	20.7%
医療機関受診あり・売薬なし	11.1%	11.9%	11.9%	11.4%
医療機関も売薬も使用	20.1%	16.8%	19.0%	20.6%
総数	11.8%	12.5%	13.5%	13.3%

図表5 自覚症状と保健医療サービス利用状況(眼系)

目のかすみ	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	12.6%	14.9%	16.0%	14.5%
医療機関受診なし・売薬あり	12.8%	13.2%	15.8%	15.5%
医療機関受診あり・売薬なし	17.2%	19.6%	19.6%	17.2%
医療機関も売薬も使用	30.0%	28.1%	26.8%	27.4%
総数	15.2%	17.5%	18.1%	16.7%
ものを見づらい	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず		10.6%	11.0%	10.1%
医療機関受診なし・売薬あり		9.8%	11.6%	9.1%
医療機関受診あり・売薬なし		15.3%	14.9%	12.7%
医療機関も売薬も使用		19.6%	21.1%	21.6%
総数		13.1%	13.2%	11.9%

図表6 自覚症状と保健医療サービス利用状況(耳系)

耳なりがする	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	7.8%	8.0%	8.9%	9.9%
医療機関受診なし・売薬あり	7.2%	6.6%	8.1%	7.0%
医療機関受診あり・売薬なし	9.5%	10.5%	10.4%	9.9%
医療機関も売薬も使用	14.5%	15.0%	13.3%	14.1%
総数	8.7%	9.3%	9.7%	9.8%
きこえにくい	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず		7.8%	9.0%	9.9%
医療機関受診なし・売薬あり		6.2%	7.6%	7.4%
医療機関受診あり・売薬なし		13.3%	14.2%	12.9%
医療機関も売薬も使用		16.7%	19.2%	18.9%
総数		10.6%	11.7%	11.6%

図表7 自覚症状と保健医療サービス利用状況(心臓系)

動悸	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	4.1%	4.7%	4.9%	4.4%
医療機関受診なし・売薬あり	3.6%	3.6%	5.1%	4.4%
医療機関受診あり・売薬なし	10.0%	11.6%	11.1%	9.9%
医療機関も売薬も使用	13.9%	12.1%	13.0%	11.9%
総数	7.1%	8.2%	8.1%	7.4%

息切れ	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	3.1%	3.6%	4.3%	3.8%
医療機関受診なし・売薬あり	3.3%	3.3%	3.0%	2.7%
医療機関受診あり・売薬なし	7.7%	9.0%	9.1%	8.8%
医療機関も売薬も使用	12.3%	11.3%	9.8%	11.0%
総数	5.5%	6.4%	6.7%	6.4%

前胸部に痛みがある	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	2.6%	2.9%	2.8%	2.9%
医療機関受診なし・売薬あり	2.2%	2.1%	1.6%	1.9%
医療機関受診あり・売薬なし	4.1%	5.3%	4.9%	4.5%
医療機関も売薬も使用	8.5%	6.2%	7.6%	6.7%
総数	3.4%	4.1%	3.9%	3.8%

図表8 自覚症状と保健医療サービス利用状況(呼吸器系)

せきやたんが出る	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	8.4%	14.4%	14.8%	12.4%
医療機関受診なし・売薬あり	12.5%	8.8%	9.2%	13.3%
医療機関受診あり・売薬なし	10.0%	16.1%	15.9%	14.5%
医療機関も売薬も使用	17.7%	17.9%	16.0%	19.0%
総数	10.0%	15.1%	15.1%	13.9%

鼻がつまる・鼻汁が出る	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	7.9%	12.0%	12.4%	9.2%
医療機関受診なし・売薬あり	12.3%	5.7%	6.6%	13.8%
医療機関受診あり・売薬なし	6.7%	9.0%	10.2%	9.8%
医療機関も売薬も使用	8.9%	9.5%	11.9%	14.6%
総数	8.0%	10.2%	11.1%	10.4%

ゼイゼイする	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	1.6%	2.3%	2.4%	1.7%
医療機関受診なし・売薬あり	2.4%	1.0%	1.3%	2.2%
医療機関受診あり・売薬なし	4.4%	5.4%	5.4%	4.4%
医療機関も売薬も使用	7.1%	4.7%	5.8%	6.4%
総数	3.2%	3.8%	3.9%	3.3%

図表9 自覚症状と保健医療サービス利用状況(消化器系)

胃のもたれ・むねやけ	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	4.8%	11.4%	10.7%	7.5%
医療機関受診なし・売薬あり	7.8%	8.0%	9.1%	11.0%
医療機関受診あり・売薬なし	5.7%	12.4%	11.5%	9.8%
医療機関も売薬も使用	11.3%	17.7%	16.7%	14.9%
総数	5.8%	11.9%	11.2%	9.5%

下痢	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	3.5%	5.0%	4.9%	5.1%
医療機関受診なし・売薬あり	5.0%	2.3%	2.4%	5.1%
医療機関受診あり・売薬なし	2.6%	3.6%	4.0%	3.5%
医療機関も売薬も使用	5.8%	3.7%	4.9%	6.1%
総数	3.3%	4.2%	4.3%	4.4%

便秘	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	8.0%	10.3%	10.8%	10.3%
医療機関受診なし・売薬あり	10.3%	8.4%	8.8%	13.2%
医療機関受診あり・売薬なし	10.2%	13.0%	13.5%	12.4%
医療機関も売薬も使用	20.1%	18.6%	18.4%	20.5%
総数	9.7%	11.8%	12.2%	12.3%

食欲不振	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	1.6%	2.3%	2.4%	2.5%
医療機関受診なし・売薬あり	2.4%	1.8%	1.6%	2.6%
医療機関受診あり・売薬なし	3.1%	4.1%	3.8%	3.7%
医療機関も売薬も使用	6.3%	5.1%	5.9%	6.1%
総数	2.5%	3.2%	3.1%	3.3%

腹痛・胃痛	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	5.4%	7.4%	7.1%	5.6%
医療機関受診なし・売薬あり	10.3%	4.2%	4.6%	9.0%
医療機関受診あり・売薬なし	7.9%	8.2%	7.0%	5.7%
医療機関も売薬も使用	9.9%	9.2%	10.2%	8.4%
総数	7.4%	7.6%	7.0%	6.3%

痔による痛み・出血など	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	2.8%	2.8%	3.4%	2.9%
医療機関受診なし・売薬あり	4.5%	2.2%	2.4%	4.5%
医療機関受診あり・売薬なし	3.0%	3.4%	3.1%	2.7%
医療機関も売薬も使用	6.0%	4.0%	4.5%	5.5%
総数	3.2%	3.1%	3.2%	3.2%

図表10 自覚症状と保健医療サービス利用状況(歯科系)

歯が痛い	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	8.2%	7.2%	6.5%	5.7%
医療機関受診なし・売薬あり	7.6%	4.4%	4.1%	5.2%
医療機関受診あり・売薬なし	10.6%	8.7%	7.5%	7.0%
医療機関も売薬も使用	10.8%	8.6%	8.6%	8.2%
総数	9.3%	7.8%	6.9%	6.4%

歯ぐきのはれ・出血	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	5.7%	7.0%	7.7%	6.6%
医療機関受診なし・売薬あり	5.8%	4.4%	5.5%	6.0%
医療機関受診あり・売薬なし	4.8%	7.2%	7.6%	7.0%
医療機関も売薬も使用	6.7%	9.1%	10.3%	9.8%
総数	5.3%	7.0%	7.6%	6.9%

かみにくい	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず		6.5%	6.9%	6.2%
医療機関受診なし・売薬あり		5.6%	5.9%	6.1%
医療機関受診あり・売薬なし		10.2%	10.3%	8.0%
医療機関も売薬も使用		15.4%	15.6%	14.3%
総数		8.5%	8.7%	7.5%

図表11 自覚症状と保健医療サービス利用状況(皮膚科系)

発疹(じんま疹・できものなど)	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	2.0%	4.1%	3.9%	3.1%
医療機関受診なし・売薬あり	3.0%	2.4%	2.6%	5.4%
医療機関受診あり・売薬なし	3.8%	5.3%	5.3%	4.8%
医療機関も売薬も使用	5.8%	4.9%	5.3%	7.0%
総数	3.1%	4.6%	4.6%	4.5%

かゆみ(湿疹・水虫など)	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	10.0%	11.5%	13.9%	10.6%
医療機関受診なし・売薬あり	14.6%	8.5%	10.2%	16.2%
医療機関受診あり・売薬なし	11.2%	13.1%	15.3%	12.9%
医療機関も売薬も使用	21.9%	16.5%	18.6%	22.8%
総数	11.5%	12.3%	14.6%	13.2%

図表12 自覚症状と保健医療サービス利用状況(筋骨格系)

肩こり	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	32.7%	35.9%	36.3%	34.2%
医療機関受診なし・売薬あり	36.3%	53.5%	55.2%	40.8%
医療機関受診あり・売薬なし	23.1%	25.8%	26.4%	24.8%
医療機関も売薬も使用	45.0%	56.0%	58.1%	41.8%
総数	28.9%	32.6%	33.2%	31.2%

腰痛	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	33.4%	32.5%	34.1%	34.7%
医療機関受診なし・売薬あり	30.2%	58.9%	60.7%	36.4%
医療機関受診あり・売薬なし	28.7%	31.7%	32.1%	32.8%
医療機関も売薬も使用	45.0%	60.8%	59.3%	49.6%
総数	31.0%	34.4%	35.2%	35.0%

手足の関節が痛む	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	16.7%	15.5%	17.5%	16.9%
医療機関受診なし・売薬あり	17.2%	26.2%	26.6%	19.5%
医療機関受診あり・売薬なし	21.8%	23.3%	23.6%	23.2%
医療機関も売薬も使用	39.1%	36.5%	41.2%	39.5%
総数	19.7%	20.5%	21.6%	21.6%

手足の動きが悪い	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	3.9%	4.7%	6.1%	6.6%
医療機関受診なし・売薬あり	3.6%	7.4%	8.3%	5.6%
医療機関受診あり・売薬なし	10.0%	13.5%	14.4%	13.5%
医療機関も売薬も使用	17.5%	21.8%	19.5%	21.9%
総数	7.0%	9.6%	10.6%	10.7%

手足のしびれ	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	7.9%	8.2%	9.7%	10.4%
医療機関受診なし・売薬あり	6.7%	11.9%	13.2%	7.7%
医療機関受診あり・売薬なし	11.8%	13.8%	14.3%	14.9%
医療機関も売薬も使用	19.5%	24.2%	24.7%	21.7%
総数	9.8%	11.6%	12.5%	12.8%

手足が冷える	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず		7.1%	7.1%	6.4%
医療機関受診なし・売薬あり		7.9%	9.9%	7.9%
医療機関受診あり・売薬なし		9.9%	10.2%	9.9%
医療機関も売薬も使用		20.6%	22.7%	19.0%
総数		8.9%	9.2%	9.1%

足のむくみやだるさ	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず		7.6%	9.1%	9.2%
医療機関受診なし・売薬あり		6.4%	9.3%	8.7%
医療機関受診あり・売薬なし		9.9%	10.4%	9.8%
医療機関も売薬も使用		13.2%	20.4%	17.3%
総数		8.8%	10.1%	9.9%

図表13 自覚症状と保健医療サービス利用状況(泌尿器・性器系)

尿がでにくい・排尿時痛い	H7	H10	H13	H16	頻尿(尿に出る回数が多い)	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	1.2%	1.6%	2.1%	1.6%	医療機関も売薬も使用せず	3.4%	4.5%	5.8%	7.2%
医療機関受診なし・売薬あり	0.9%	1.4%	1.4%	1.4%	医療機関受診なし・売薬あり	3.3%	2.9%	5.4%	5.8%
医療機関受診あり・売薬なし	2.5%	4.6%	4.7%	3.7%	医療機関受診あり・売薬なし	5.7%	8.2%	9.8%	10.7%
医療機関も売薬も使用	3.6%	6.3%	4.9%	6.4%	医療機関も売薬も使用	12.1%	11.4%	13.5%	16.3%
総数	1.8%	3.2%	3.4%	2.9%	総数	4.7%	6.4%	7.9%	9.2%
尿失禁(尿がもれる)	H7	H10	H13	H16	月経不順・月経痛	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	1.4%	1.7%	2.9%	3.3%	医療機関も売薬も使用せず	3.1%	4.5%	4.4%	3.4%
医療機関受診なし・売薬あり	1.1%	1.0%	2.8%	2.4%	医療機関受診なし・売薬あり	4.1%	2.0%	3.4%	5.3%
医療機関受診あり・売薬なし	2.2%	3.6%	4.4%	5.0%	医療機関受診あり・売薬なし	1.7%	2.0%	2.1%	1.9%
医療機関も売薬も使用	5.1%	3.7%	5.2%	8.9%	医療機関も売薬も使用	3.6%	3.3%	2.3%	2.4%
総数	1.8%	2.6%	3.7%	4.3%	総数	2.6%	3.2%	3.2%	2.9%

図表14 自覚症状と保健医療サービス利用状況(外科, けが系)

骨折・ねんざ・脱臼	H7	H10	H13	H16	切り傷・やけどなどのけが	H7	H10	H13	H16
医療機関も売薬も使用せず	1.9%	2.6%	2.1%	2.1%	医療機関も売薬も使用せず	1.4%	1.4%	1.7%	1.7%
医療機関受診なし・売薬あり	1.8%	6.8%	4.4%	2.1%	医療機関受診なし・売薬あり	2.2%	1.0%	0.5%	1.9%
医療機関受診あり・売薬なし	2.0%	4.1%	4.3%	3.6%	医療機関受診あり・売薬なし	1.2%	1.4%	1.2%	1.1%
医療機関も売薬も使用	2.9%	5.3%	6.4%	4.4%	医療機関も売薬も使用	1.8%	1.4%	1.8%	2.2%
総数	1.9%	3.6%	3.4%	2.9%	総数	1.4%	1.4%	1.4%	1.5%

図表15 医療保険の加入状況と保健医療サービスの利用状況(平成16年度)

	医療機関も売薬も使用せず	医療機関なし・売薬あり	医療機関あり・売薬なし	医療機関も売薬も利用	総数
国保-市町村	3021	1183	5658	854	10716
	28.2%	11.0%	52.8%	8.0%	100.0%
国保-組合	218	80	243	26	567
	38.4%	14.1%	42.9%	4.6%	100.0%
本人	2296	965	1894	225	5380
	42.7%	17.9%	35.2%	4.2%	100.0%
家族	1325	614	1595	203	3737
	35.5%	16.4%	42.7%	5.4%	100.0%
その他	114	45	212	34	405
	28.1%	11.1%	52.3%	8.4%	100.0%
不詳	66	23	106	10	205
	32.2%	11.2%	51.7%	4.9%	100.0%
総数	7040	2910	9708	1352	21010
	33.5%	13.9%	46.2%	6.4%	100.0%

図表16 仕事の有無と保健医療サービスの利用状況(平成16年度)

	医療機関も売薬も使用せず	医療機関なし・売薬あり	医療機関あり・売薬なし	医療機関も売薬も利用	総数
あり	4153	1838	3818	492	10301
	40.3%	17.8%	37.1%	4.8%	100.0%
なし	2846	1058	5832	852	10588
	26.9%	10.0%	55.1%	8.0%	100.0%
不詳	41	14	58	8	121
	33.9%	11.6%	47.9%	6.6%	100.0%
総数	7040	2910	9708	1352	21010
	33.5%	13.9%	46.2%	6.4%	100.0%

図表17 H16 仕事の有無と保健医療サービスの利用状況(平成16年度)

	医療機関も売薬も使用せず	医療機関なし・売薬あり	医療機関あり・売薬なし	医療機関も売薬も利用	総数
主に仕事	3395	1455	3016	387	8253
	41.1%	17.6%	36.5%	4.7%	100.0%
主に家事で仕事あり	693	357	733	100	1883
	36.8%	19.0%	38.9%	5.3%	100.0%
主に通学で仕事あり	27	12	16	2	57
	47.4%	21.1%	28.1%	3.5%	100.0%
家事通学以外のことが主で仕事あり	38	14	53	3	108
	35.2%	13.0%	49.1%	2.8%	100.0%
通学のみ	58	18	30	3	109
	53.2%	16.5%	27.5%	2.8%	100.0%
家事(専業)	1490	623	2412	351	4876
	30.6%	12.8%	49.5%	7.2%	100.0%
その他	1298	417	3390	498	5603
	23.2%	7.4%	60.5%	8.9%	100.0%
不詳	41	14	58	8	121
	33.9%	11.6%	47.9%	6.6%	100.0%
総数	7040	2910	9708	1352	21010
	33.5%	13.9%	46.2%	6.4%	100.0%

図表18(世帯)所得合計階級と保健医療サービスの利用状況(平成16年度)

	医療機関も売薬も使用せず	医療機関なし・売薬あり	医療機関あり・売薬なし	医療機関も売薬も利用	総数
200万円未満	770	314	1558	245	2887
	26.7%	10.9%	54.0%	8.5%	100.0%
200～399万円	1454	583	2371	330	4738
	30.7%	12.3%	50.0%	7.0%	100.0%
400～599万円	1447	641	1820	278	4186
	34.6%	15.3%	43.5%	6.6%	100.0%
600～799万円	1195	513	1407	188	3303
	36.2%	15.5%	42.6%	5.7%	100.0%
800～999万円	869	328	965	109	2271
	38.3%	14.4%	42.5%	4.8%	100.0%
1000万円以上	1305	531	1587	202	3625
	36.0%	14.6%	43.8%	5.6%	100.0%
総数	7040	2910	9708	1352	21010
	33.5%	13.9%	46.2%	6.4%	100.0%

図表19(個人部計)所得合計階級と保健医療サービスの利用状況(平成16年度)

	医療機関も売薬も使用せず	医療機関なし・売薬あり	医療機関あり・売薬なし	医療機関も売薬も利用	総数
200万円未満	770	314	1558	245	2887
	26.7%	10.9%	54.0%	8.5%	100.0%
200～399万円	1454	583	2371	330	4738
	30.7%	12.3%	50.0%	7.0%	100.0%
400～599万円	1447	641	1820	278	4186
	34.6%	15.3%	43.5%	6.6%	100.0%
600～799万円	1195	513	1407	188	3303
	36.2%	15.5%	42.6%	5.7%	100.0%
800～999万円	869	328	965	109	2271
	38.3%	14.4%	42.5%	4.8%	100.0%
1000万円以上	1305	531	1587	202	3625
	36.0%	14.6%	43.8%	5.6%	100.0%
総数	7040	2910	9708	1352	21010
	33.5%	13.9%	46.2%	6.4%	100.0%

図表20(個人)所得合計階級と保健医療サービスの利用状況(平成16年度)

	医療機関も売薬も使用せず	医療機関なし・売薬あり	医療機関あり・売薬なし	医療機関も売薬も利用	総数
200万円未満	2579	1064	4492	688	8823
	29.2%	12.1%	50.9%	7.8%	100.0%
200～399万円	1569	664	2160	293	4686
	33.5%	14.2%	46.1%	6.3%	100.0%
400～599万円	734	286	717	82	1819
	40.4%	15.7%	39.4%	4.5%	100.0%
600～799万円	403	149	376	40	968
	41.6%	15.4%	38.8%	4.1%	100.0%
800～999万円	194	55	156	21	426
	45.5%	12.9%	36.6%	4.9%	100.0%
1000万円以上	117	52	160	14	343
	34.1%	15.2%	46.6%	4.1%	100.0%
総数	5596	2270	8061	1138	17065
	32.8%	13.3%	47.2%	6.7%	100.0%

図表21 所得合計階級(個人)と健康意識

健康意識	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	不詳	総数
200万円未満	346	1014	3450	2630	506	877	8823
	3.9%	11.5%	39.1%	29.8%	5.7%	9.9%	100.0%
	17.1%		39.1%	39.5%			
200～399万円	218	603	2078	1251	211	325	4686
	4.7%	12.9%	44.3%	26.7%	4.5%	6.9%	100.0%
	18.8%		44.3%	33.5%			
400～599万円	106	267	856	439	45	106	1819
	5.8%	14.7%	47.1%	24.1%	2.5%	5.8%	100.0%
	21.8%		47.1%	28.3%			
600～799万円	55	136	447	275	20	35	968
	5.7%	14.0%	46.2%	28.4%	2.1%	3.6%	100.0%
	20.5%		46.2%	31.6%			
800～999万円	22	70	204	105	12	13	426
	5.2%	16.4%	47.9%	24.6%	2.8%	3.1%	100.0%
	22.3%		47.9%	28.3%			
1000万円以上	18	49	157	81	12	26	343
	5.2%	14.3%	45.8%	23.6%	3.5%	7.6%	100.0%
	21.1%		45.8%	29.3%			
総数	765	2139	7192	4781	806	1382	17065
	4.5%	12.5%	42.1%	28.0%	4.7%	8.1%	100.0%
	18.5%		42.1%	35.6%			

参考表 インターネット調査による売薬への支出額の推計値

選択肢	中央値	保険が利かない, 漢方薬や民間薬・薬草茶・生薬		ビタミン剤・ミネラル剤・栄養補助食品など, いわゆるサプリメント		栄養ドリンク・滋養強壮剤	
	(イ)	(ロ)	(イ)×(ロ)	(ロ)	(イ)×(ロ)	(ロ)	(イ)×(ロ)
1000円未満	500	8	4,000	44	22,000	114	57,000
1000～3000円未満	2,000	30	60,000	123	246,000	177	354,000
3000～5000円未満	4,000	19	76,000	168	672,000	160	640,000
5000～8000円未満	6,500	12	78,000	85	552,500	56	364,000
8000～1万円未満	9,000	20	180,000	117	1,053,000	60	540,000
1万～3万円未満	15,000	22	330,000	195	2,925,000	51	765,000
3万～5万円未満	40,000	8	320,000	74	2,960,000	16	640,000
5万～10万円未満	75,000	4	300,000	40	3,000,000	1	75,000
10万～50万円未満	300,000	6	1,800,000	28	8,400,000	2	600,000
50万円以上	500,000	0	0	3	1,500,000	0	0
計		129	3,148,000	877	21,330,500	637	4,035,000
(A)平均			24,403		165,353		31,279
(B)解答者総数のうちの利用割合			8.05%		54.71%		39.74%
(C)期待値			1,964		90,464		12,430
(D)支出金額総額(推計値)							104,859

II. 分担研究報告書 4.

厚生労働科学研究費補助金(医療安全・医療技術評価総合研究事業)
分担研究報告書

相補・代替医療の利用とヘルスリテラシーに関する研究

研究分担者 中山 健夫 (京都大学大学院医学研究科 教授)

研究協力者 高橋 由光 (国立国際医療センター研究所)

研究協力者 小野 直哉 (同志社大学感情ストレス健康研究センター)

研究要旨

健康に関するリテラシーに焦点をあてた「ヘルスリテラシー」への関心が高まっているが、相補・代替医療(CAM)の利用とヘルスリテラシーに関する知見は少ない。本分担研究では、CAM 利用とヘルスリテラシー/教育レベルに関する既存研究をレビューするとともに、米国 National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM) が、一般の消費者に提供している情報についてレビューを行った。

CAM の利用は、高い教育レベルと関連していること(もしくは関連していないこと)を報告している既存研究が多かった。しかし、ヘルスリテラシーには、教育レベルと高い相関があることが予想される機能的リテラシーだけでなく、双方向的・批判的ヘルスリテラシーもあり、科学的・市民的・文化的側面も考慮しなければならない。また、NCCAM は、医療情報に対する評価や判断をサポートする応用可能な情報を一般の消費者に提供していた。CAM は、消費者個人が定義し (self-defined) 利用するという側面も大きく、適切な CAM 利用のためには、消費者個人レベルにおけるヘルスリテラシーの向上が求められる。

A. 研究目的

1. 背景

近年、教育の格差によってもたらされるリテラシー格差、とくに健康に関するリテラシーに焦点をあてた「ヘルスリテラシー」(表1) の概念が欧米で注目されている。米国では「Healthy People 2010」において健康に関するコミュニケーション能力を重視しており、ヘルスリテラシー向上を重要な目標の一つとしている。ヘルスリテラシーは、健康情報をうまく利用できるスキル、すなわち医療分野の「読み・書き・そろばん」の能力であると考えられる[1]。

ヘルスリテラシーの代表的な評価ツールとしては、Rapid Estimate of Adult Literacy in Medicine (REALM) や Test of Functional Health Literacy in Adults (TOFHLA) などが挙げられる。これらの評価ツールは、医療情報に関わる単語能力や、読解能力、数的処理能力を評価することが可能である。しかしながら、ヘルスリテラシーは、聞く、話す、書く、読む能力だけではなく、数字の理解、文化的・認知的知識、疫学・EBM 的な基礎知識なども含まれると考えられる。Nutbeam は、狭義のヘルスリテラシーとしての機能的ヘルスリテラシー

(Basic/functional health literacy)だけでなく、双方向的ヘルスリテラシー (Communicative/interactive health literacy), 批判的ヘルスリテラシー (Critical health literacy) という3つのヘルスリテラシーを含めた広義のヘルスリテラシーを提唱している[2-4]. 機能的ヘルスリテラシーとは、健康に関連した情報を理解するための、聞く、話す、書く、読む能力である。双方向的ヘルスリテラシーとは、社会的コミュニケーションスキルによって情報を積極的に獲得し、適応する能力である。批判的ヘルスリテラシーとは、健康情報を批判的に吟味し、健康を向上させるように情報を利用する能力である。ヘルスリテラシーはヘルスプロモーションアウトカムのひとつであり、ヘルスリテラシーの向上がヘルスアウトカムを向上させる可能性が示唆されている(図1).

また、Zarcadoolas は、ヘルスリテラシーを「情報を得た選択をし、健康リスクを減少させ、生活の質を向上させるための健康情報と考え方を探し、理解し、評価して利用できる、生涯を通して発達する幅広い範囲のスキルと能力」(the wide range of skills, and competencies that people develop to seek out, comprehend, evaluate and use health information and concepts to make informed choices, reduce health risks and increase quality of life) ととらえ、基本的リテラシー (fundamental literacy), 科学的リテラシー (science literacy), 市民リテラシー (civic literacy), 文化的リテラシー (cultural literacy) に分類している[4, 5].

相補・代替医療 Complementary and Alternative Medicine (CAM) の利用に関しても、利用者のヘルスリテラシー向上は重要な点であろう。しかしながら、日本国内において CAM の利用とヘルスリテラシーに関する知見はほとんどない。米国 National Institutes of Health

(NIH) の一部門であり、CAM の研究と評価を進める役割を担う National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM) <http://nccam.nih.gov> では、CAM の臨床研究情報を集約するだけでなく、医療情報に対する評価や判断をサポートする応用可能な情報を一般の消費者に提供している(図2).

2. 目的

本研究では、CAM の利用とヘルスリテラシーに関する既存研究をレビューするとともに、NCCAM が一般の消費者へ向けて提供している情報のレビューを行った。

B. 研究方法

1. 文献レビュー

NCCAM は、National Library of Medicine (NLM) と協力し、CAM on PubMed <http://nccam.nih.gov/research/camonpubmed> を提供している。PubMed 上で、Complementary Medicine という Subsets (CAM[SB]) が利用可能である(図3)。また、Complementary Therapies という MeSH Terms (Complementary Therapies[MH]) もある。

Complementary Therapies[MH] は、CAM[SB] にすべて含まれる(表2)。CAM[SB] は、広い範囲で検索を行う場合に有用であろう。また、Complementary Therapies[MH] は、下位 MeSH Terms に多くの CAM セラピーを含んでいる(表2)。本文献レビューでは、限定的ではあるが、特に本研究班において重要と考えられる、鍼灸、漢方、サプリメントを中心に検索することを試みた。

また、ヘルスリテラシーを直接評価している研究は未だ少ない(表3)。そのため、ヘルスリ

テラシーに限定せず、教育レベルについても検討することにした。

本文献レビューでは、PubMed において、2000 年以降の、CAM の利用と、リテラシーや教育レベルとの関連を検討している文献をレビューした(2009 年 3 月 10 日付)。具体的な検索式は、以下の通りである。

検索式:

("Complementary Therapies"[MH:noexp] OR "Acupressure"[MH] OR "Acupuncture Therapy"[MH] OR "Medicine, Kampo"[MH] OR "Dietary Supplements"[MH]) AND ("use"[TIAB] OR "uses"[TIAB] OR "user"[TIAB] OR "users"[TIAB]) AND ("literacy"[TIAB] OR "education"[TIAB] OR "educational"[TIAB]) AND (English[LANG] OR Japanese[LANG]) AND "persons"[MH] AND ("2000/01/01"[PDAT] : "2009/03/10"[PDAT])

2. NCCAM による一般消費者向け情報

NCCAM は、一般消費者に対しても、CAM に関する情報を提供している。特に、一般の消費者が CAM を適切に利用するための情報を「Be an Informed Consumer」(図 2)としてまとめている。本研究では、その中の「CAM を利用する際留意すべきこと (Are You Considering Using CAM?)」[7]と「ウェブ上の医療情報を評価するための 10 項目 (10 Things to Know About Evaluating Medical Resources on the Web)」[8]を紹介する。

(倫理面への配慮)

人を対象としていないため倫理面での配慮は特にない。

C. 研究結果

1. 文献レビュー

検索結果数は 163 件であった。そのうち、CAM に関連していないもの、アウトカムとしてリテラシーや教育レベルが検討されていないもの、医療提供者や医学生を対象としているもの、を除いた、85 件について、対象(疾患、人数、国)、主な調査項目と結果(CAM の利用割合、CAM の利用とリテラシーや教育レベルとの関連)をまとめた(添付資料 1)。

2. NCCAM による一般消費者向け情報

NCCAM が一般消費者向けに CAM を利用する際留意すべきこととして提示している内容は、主に以下の通りである。

- ・ 知識のある消費者として、自身の健康に責任を持つ。あなたが興味を持っている CAM 療法の安全性と有効性についてどのような科学研究が実施されてきたかについて調べてみる。
- ・ 医療や治療についての決断は、医療提供者との協議を経て、また各個人の状況およびニーズに基づき、下すべきである。治療やケアに関する決断を下す前に、まず CAM 情報について医療提供者と話し合ってみる。
- ・ あなたが利用している補完代替医療サービスがあれば、そのことを医療提供者に伝えよう。また、あなたが健康管理のために行っていること全般について説明しよう。そうすることによって、調和の取れた安全なケアを確実にできる。
- ・ 鍼などの CAM 療法を利用する場合は、慎重に CAM 提供者を選択すること。CAM サービスが保険でカバーされるかどうかについて、保険会社に問い合わせる。